

1

〔問題1〕 (10点×2)

(目的が変わってしまった手段)

- ・教科書に書かれた課題を達成すること。
- ・教科書の課題を積み上げていくこと。
- ・勝つための教科書の通りにうまくやること。

(変わってしまう前の元の目的)

- ・スポーツの世界で勝利を得ること。
- ・スポーツ競技で最高の勝利を得ること。

〔解説〕

もともとは、「競技で勝つために」勝ち方の書いてある教科書を探しはじめたはずが、いつの間にか、「教科書どおりに練習するために」教科書に書かれていない練習方法は一切試さないというふうに変わってしまったてはいないかと、筆者は注意をうながしています。

〔問題2〕 (5点×3)

- (A) エ (B) ア (C) オ

(解説)

(C)のような「報酬」の使い方は一般的ではありません。ただし、本文に「知恵の輪は、外そうとしている瞬間がいちばん楽しい。もうちょっとで外せそうだけどまだできていないあたりが、一番ワクワクする。」とあり、筆者は「レースに勝つことは、輪を外すことと同じだ。」と言っています。「レースに勝とうとしている瞬間が(勝った後よりも)楽しく、その楽しさが自分にとってはいちばんの報酬だ」という筆者の考えを読み取りましょう。

〔問題3〕 (15点)

- ・自身で練習方法を試行錯誤することなく、その人にとって正しいとも限らないが、一般的に正しいと言われる手法を探していること。
- ・正しいトレーニング方法の決まっていないスポーツの世界で、自分で考えることもなく、他者が正しいと言う手法に頼ろうとしていること。

(解説)

傍線部を細かく見てみましょう。

- ・「最初から」⇨「自分で考える努力などをする前に」、
 - ・「知恵の輪の外し方」⇨「スポーツ競技で勝つための方法」、
 - ・「教科書を買おうとしている」⇨「他から教わろうとしている」、
- と言いかえていくことができます。

〔問題4〕 (50点)

(作文例・四三八字)

知恵の輪外しでは、輪を外したからといって特別な報酬が手に入るわけではなく、どうやったら輪を外せるかと一から考えて、試行錯誤に熱中すること自体が最も楽しい遊びの瞬間だと筆者は述べている。

私は小学校の昼休みによく校庭でドッジボールをして遊ぶ。ドッジボールでは、自分に当たったボールが地面に着いたらアウト、チーム全員がアウトになると負けと決まっている。しかし、みんなが勝敗結果ばかり気にしているかというところが違うのではない。たとえば、パスを素早く回して相手を混乱させようと作戦を立てたがうまく行かなかったことがあった。そういうときにみんなで、次はボールを受け取ってから投げられるまでの時間を短くしようなどと作戦を変えていくのも、ドッジボールの楽しみの一つだった。

一度失敗したとしても、成功するまで何度も挑戦しつづければ、途中の失敗は成功に至るためのプロセスだったということもできる。重要なのは、失敗の原因は何か、次は何を改善すべきかと、自分で納得いくまで試行錯誤する過程を楽しむことだ。

(解説)

スポーツにも、遊びにも、「だれでも必ずこうすればうまくいく」という教科書など存在しない。その方法を自分で考える過程を楽しもう。というのが、およそ本文の意図ですが、これは作文にもあてはまることでしょう。

受検作文では、事前に設問に指定された条件だけは絶対に守る必要がありますが、それはいわばスポーツで言うルールのようなものです。ルールだけはしっかり守りながら、一文一文をていねいにつむぐようにしましょう。